

Intelligent Caféにおける新しい学びの取り組み —コーディネーション能力の獲得と学芸カフェテリアとの連携—

◎坂井 英夫	(東京学芸大学附属高等学校理科)
○鈴木 琴子	(東京学芸大学養護教育講座養護教育分野)
増田 金吾	(東京学芸大学学生キャリア支援センター長)
松尾 直博	(東京学芸大学教育心理学講座臨床心理学分野)
元川 ゆかり	(東京学芸大学学生キャリア支援センター)
塚越 健一朗	(東京学芸大学附属高等学校国語科)
宮城 政昭	(東京学芸大学附属高等学校理科)
齋藤 洋輔	(東京学芸大学附属高等学校理科)
内山 正登	(東京学芸大学附属高等学校理科)
池尻 良平	(東京大学大学院情報学環)
番田 清美	(産業能率大学)

代表者連絡先：sakaih@gakugei-hs.setagaya.tokyo.jp

【キーワード】 In-café, 学芸カフェテリア, 少し変わった進路講演会, コーディネーション能力

1 はじめに

本校は、平成24年度より自由な学びの場として Intelligent Café (以下 In-café) の運営に取り組んでいる。生徒の活動による総合的なコミュニケーション能力として“コーディネーション能力”を定義し、その育成について研究を行っている。また、生徒たちの自由な学び、やりたいことを実現できる機会を設けるべく、多くの企画を生徒が主導となって実現させている。In-caféには、①自由な学びの場、②人とつながる場という機能があり、同時に解決すべき課題も存在する。学芸カフェテリアと連携して In-café をさらに充実させ、この実践を全国の中等教育学校に広めるために、価値ある実践を外部に発信したい。

2 本プロジェクトの目的

① 自由な学びの場としての学習環境の充実

教員や生徒が自由に議論したり、講義を聞いたり、In-caféは授業だけでは得られないような学びを創出できる場である。生徒が学習環境をいかに整えていくべきかを検討しているが、まだ十分な環境が整っているとはいえない。本校教員と生徒とで、どのような学習環境を整えればよいかを議論し、その環境を整えることによって In-café の活動がどのように変貌していくかを分析・評価する。

② 人とつながる場としての学芸カフェテリアとの連携

多くの企画を実現していく過程で、In-caféが人と人をつなげるヒューマンネットワークの拠点になっていることに気付いた。ヒューマンネットワークの強化の意味も込めて、学芸カフェテリアとの協力を深めていきたい。学芸カフェテリアは大学生に対して多くの魅力的な講座を実施してきた経歴もあり、そこで培われたコンテンツやノウハウを In-café に持ち込むことで、さらなる企画の充実とスタッフ生徒の企画力の向上を目指したい。具体的な計画は、以下の4点である。

- (1) In-café スタッフと、学芸カフェ・メイツとの交流
- (2) 学芸カフェ講座の本校での実施
- (3) 本校卒業生によるキャリア支援講座の検討
- (4) キャリア・ナビから本校の進路指導への応用の検討

③ Web サイトの構築・運営の研究

学芸カフェテリアでは運営の3つの柱として、先の目標に示した学芸カフェテリア講座、キャリア・ナビに加えて「Web サイトの構築」を掲げ、講座やキャリア・ナビの申し込み、外部への発信等に生かしている。学芸カフェテリアのWeb サイトの構築・運営を本校教員が学び、本校のWeb ページ内のIn-café のページに応用する方法を学びたい。

3 本プロジェクトの実施内容

① 自由な学びの場としての学習環境の充実

このプロジェクトが承認されたことにより、In-café の環境整備費が認められた。In-café スタッフに必要な物品を検討してもらい、提案された物品を購入し提供することができた。具体的な物品としては、デスクトップPC、3Dプリンタ、3Dプリンタ用樹脂、キューブソファ、丸椅子、カーテン、ブラックボード、プレゼンテーションポインター、収納棚、ビデオカメラが購入され、In-café に導入された。In-café のねらいである「生徒がやりたいことを実現できる」が具現化されたと考える。

② 人とつながる場としての学芸カフェテリアとの連携

(1) In-café スタッフと、学芸カフェ・メイツとの交流

平成25年8月27日(火)にIn-café スタッフ6名が大学の学芸カフェテリアを訪問した。番田先生と学芸カフェ・メイツの方々から学芸カフェテリアにおけるテーブルの配置や機材機材について、カフェテリアで提供されている飲み物の管理方法、カフェテリア講座の運営方法、構築されたデータの保存、学芸カフェテリアのPR方法等についてお話いただき、多くのことを学ぶことができた。また、平成25年9月30日(月)、本校で行なわれた池尻良平先生の講座に学芸カフェ・メイツ2名が参加した。



(2) 学芸カフェ講座の本校での実施

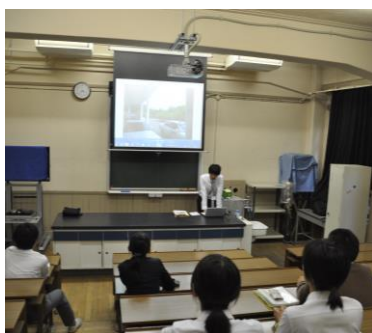
平成25年10月19日(土)に大学で実施された田頭篤先生のファシリテーション講座に本校生徒2名が参加し、話がまとまらないとき、どのように対応するとよいかについてワークショップの中から学んできた。この講座参加がきっかけとなって、平成26年1月11日(土)および平成27年1月31日(土)に、このファシリテーション講座が本校で実施された。このように、学芸カフェテリアとの連携は具体的に進んでいる。



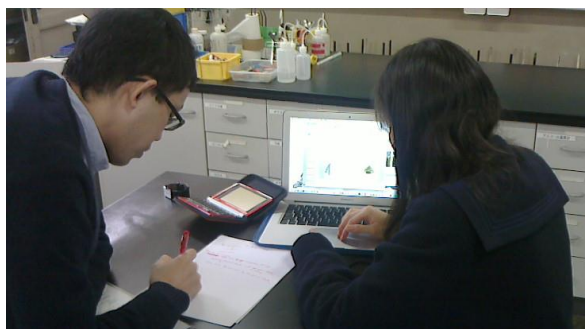
(3) 本校卒業生によるキャリア支援講座

「少し変わった進路講演会」と題して、ユニークな活動をしている本校卒業生に來校いただき、その活動を生徒に紹介してもらう企画を行なった。

平成 25 年 9 月 30 日 (月)	深道直人	昆虫に関する研究とミャンマーでの採集活動
平成 25 年 10 月 10 日 (金)	魚返明未、手島甫	ジャズのミニライブと音楽活動に進んだ理由
平成 26 年 1 月 10 日 (金)	吉田佳世	ガーナでの支援活動
平成 26 年 7 月 15 日 (火)	久間木宏子	海外大学博士課程での研究活動
平成 26 年 11 月 26 日 (水)	木村歩美	キリマンジャロの登山で学んだダイバーシティの強さ
平成 26 年 11 月 27 日 (木)	志村哲祥	精神科医・睡眠研究者・ベンチャー役員・附高 OB として
平成 26 年 12 月 3 日 (水)	田中冴美	世界チャンピオンに挑戦する道
平成 26 年 12 月 4 日 (木)	三尾峻生	医学部公募推薦へ挑戦する生徒へのアドバイス
平成 27 年 3 月 20 日 (金)	桜雪	現役東大生アイドルから夢を追うみんなへ



また、本校とタイ・プリンセスチュラポーンサイエンス高校チェンライ (PCCCR) との交流を支援するために、本校生徒の発表要旨の英文訳指導と英語による口頭発表とポスター発表の指導を行なった。平成 26 年 12 月 15 日 (月)、17 日 (水) に本校卒業生の福富渉が発表要旨の英文訳指導を、12 月 18 日 (木) に東京工業大学大学院のディバジ・セイエットが英語による口頭発表の指導を、12 月 25 日 (木) に福富渉とディバジ・セイエットが英語による口頭発表とポスター発表の指導を行なった。



この指導をきっかけとして、平成 27 年 4 月に來日するタイ・プリンセスチュラポーンサイエンス高校チェンライの生徒とのコミュニケーション能力を高めることを目的としたタイ語講座も企画された。具体的には平成 27 年 2 月 20 日 (金) と 24 日 (火)、および 3 月 16 日 (月) に本校卒業生福富渉が、初学者向けのタイ語講座を 2 回に分けて行なった。



(4) 学芸カフェテリア講座への参加

本プロジェクト代表の坂井、および附属世田谷中学校の宮内が学芸カフェテリア講座で5回の講座を企画した。

平成 25 年 11 月 22 日 (金) 中高理科授業・生徒に興味を持たせる工夫① (酸と塩基を例にして)

平成 25 年 12 月 13 日 (金) 中高理科授業・生徒に興味を持たせる工夫② (酸化還元を例にして)

平成 26 年 4 月 18 日 (金) 中高理科授業・生徒に興味を持たせる工夫③ (化学反応の量的関係)

平成 26 年 5 月 16 日 (金) 中高理科授業・生徒に興味を持たせる工夫④ (電池を例にして)

平成 26 年 6 月 13 日 (金) 中高理科授業・生徒に興味を持たせる工夫⑤ (物質の三態を例にして)

以上の講座は、学芸カフェテリア動画配信ページで公開されている。この動画を活用して、教育実習事前指導を受講する学生に酸と塩基の実験と講義の様子を見てもらい、指導上の工夫や実験準備の観点で必要なことについて考えてもらう課題を設定した。

4 成果と課題

In-café の環境整備が大きく前進した。具体的には、デスクトップ PC、3D プリンタ、3D プリンタ用樹脂、キューブソファ、丸椅子、カーテン、ブラックボード、プレゼンテーションポインター、収納棚、ビデオカメラ等が購入され、In-café に導入された。SSH 予算では、生徒の意見が反映された物品購入が難しいが、大学との連携により柔軟な予算執行が認められ、生徒が検討・要求した物品がその通りに購入することができ、In-café のねらいである「生徒がやりたいことを実現できる」が具現化されたのではないかと考える。

本校への講座に学芸カフェ・メイツが参加したことをきっかけにして、学芸カフェテリアの部会の中に附属高校担当ができ、本校 In-café スタッフと学芸カフェ・メイツの交流が細々とではあるが継続している。また、In-café の心理科学講座には、大学の教育心理学講座の学生が定期的にお願ひできる素地ができ、In-café のコンテンツが充実できた。

「少し変わった進路講演会」には、毎回 10 名前後の生徒が参加した。学校行事として行なう進路講演会では呼ぶことが難しい個性的な卒業生を招くことができ、生徒の知的好奇心を高め将来の進路を様々な角度から考えるきっかけが与えられた。何よりも本校卒業生の進路は多岐に渡っており、ユニークな人材を多く輩出していることがアピールできたことは大きな成果と言える。

本校 SSH が目指す「グローバルに発信できる意欲と語学力」をサポートする企画として、タイ交流のための英語指導を企画した。この企画によって、タイ・チェンライに訪問し Science Project に参加した生徒 11 名は、自信をもって英語による口頭発表・ポスター発表に臨むことができた。

学芸カフェテリアと小中高附属学校世田谷地区理科部との連携が確実に深まりつつある。学生への授業・実験指導を継続していく素地が構築され、今後の発展が期待できる。



In-café スタッフのコーディネーション能力が高められたかについては、具体的な実績が上げられていない。生徒が失敗を恐れずに「やりたいことをやってみる」ことをサポートするシステムの構築や教員側の柔軟なバックアップ体制の確立が必要だろう。また、魅力的な企画が行われていても、参加者が In-café スタッフや固定されたメンバーになってしまっている現状がある。In-café スタッフのやりたい企画をやると同時に、多くの生徒が参加したい企画を立案する必要もあるだろう。